



とうきょう すくわくプログラム

2025年度活動報告書

小平学園西雲母保育園



テーマ【 運動 】

設定した理由・背景

体を動かして楽しむ姿が多かったので、全身運動を通して体の動きや活動について探求していったほしかった為。

用意した環境設定

- ・体操教室で様々な運動活動の実施
- ・ハードル・支柱付き大縄・跳び箱等

活動のあゆみ

9月 子どもたちに運動会に向けての活動についてどんな事をしていきたいか問いかけを行った。

9月～3月 運動遊びを開始

週に一度、園内だけでなく、散歩先の公園遊具等も使いながら運動遊びの機会を作った。

✧探究活動の実績✧

①「運動会に向けてみんなで少し難しい事に挑戦してみたいと思うんだけど、どんな事がいいと思う？」と問いかけに対し、子どもたちから「組体操をやってみたい」「早く走れるようにはどうすればいいんだろう」という声から運動をテーマとして設定した。

②様々な運動、体の動きが出来るよう、マットや跳び箱、大縄などの道具を用意した。保育室の仕切りを外し大きな空間を作ることで、のびのびと活動が出来るよう環境を設定した。体操教室で運動プログラムを実践することで、新しい体の動きの発見、保育活動への発展を行った。

日々の保育活動などで自由に活動が出来るよう環境を整えることで、子どもたちのイメージする動き、やってみたい動きができ探究活動を進めることが出来た。

③鉄棒活動では、出来る子・出来ない子それぞれいたが、子ども同士で教え合い関わる様子があった。出来るようになった子は、新たな技に挑戦し「足はどう動かすんだろう」「手はこうかな」と意欲的に挑戦する姿があった。組体操にも挑戦し、運動会で披露するため子ども同士試行錯誤しながら形を作り上げた。棒渡りでは地面から高さを出し、間にコーンを置いて難易度を上げてみると、子どもたちで環境設定をした。苦戦し悔しい気持ちに悩む姿もあったが、「難しさを下げてこうしてみよう」という保育者の声掛けから出来そうなことから設定を変え取り組む姿があった。

↓

④最終的には物おじせず張り切って取り組む姿があった。苦手意識を持つ子もいたが、職員や友だちに励まされ投げ出さずに向き合う姿があった。運動会では探究した動き、出来るようになった動きを披露した。出来る子・出来ない子も達成感と満足感に溢れた様子だったが、出来るようになるまで運動会後も活動を続けさらなる探究活動を行った。



足の指をしっかりと使うために階段に敷いたマットの斜面をよじ登る様子



平均台に挑戦する様子



組体操に挑戦している様子

まとめ

子どもたちの関心のある事を中心に活動を進めていった事もあり、「やりたくない」という子はおらず、各々楽しんで参加している様子だった。運動会の種目決めは子どもたちが中心となって決め、運動活動ではどうやったらバランスを崩さず技が決まるかなどたくさん話しあいながら進めていくなど子ども同士の関わりもたくさん増えた。意欲的に探究活動に取り組む姿がたくさん見られた。



とうきょう すくわくプログラム

2025年度活動報告書

小平学園西雲母保育園



テーマ【 植物 】

設定した理由・背景

身近な園のそばの植物とキャンプ村にある植物との違いを知り、経験として体感してほしいと感じたためこのテーマを設定した。

用意した環境設定

図鑑や絵本

近くの公園や園庭での活動、
キャンプ村での活動を実施

活動のあゆみ

6月キャンプ村での活動に向け、近隣公園・園庭の探索を開始

8月キャンプ村活動の実施

山や川周辺にある植物の観察、採取を行う

9月キャンプ村から持ち帰った植物と園周辺植物を使って制作活動を実施

✧探究活動の実績✧

- ①園庭、近隣公園にある植物の違いから、「葉っぱの形が違うね」「公園の方がたくさんの植物があるね」という声から、「どんな違いがあるだろう」という声掛けに対し、「色が違うね」「もっと大きいのがあるかな」という疑問から植物をテーマとして設定した。
- ②どんな種類があるのか、色・形・大きさが分かるよう図鑑や絵本を用意した。戸外活動では様々な公園に行きそれぞれどんな植物があるか知るため、活動の機会を増やしキャンプ村へ行く前に多くの植物に触れる機会を増やした。
- ③キャンプ村ではたくさんの木や葉っぱ、花などを見つけ、興味津々に観察する姿があった。「公園にある植物と同じかな？」と保育者が声をかけると、「おなじだよ」「ちがうよ色んなかたちがあるんだよ」と子どもたちから様々な声が飛び交った。
キャンプ村で見つけた植物を持ち帰り、園で観察、公園にある植物と違いを見比べた。
それぞれ採取した植物を乾かし制作を行った。乾いた植物を観察すると、「線があるね」「こっちには線が無いよ」と新たな発見をする様子が見られた。様々な植物・花を観察し、「家の近くにもあるかな」「似たような葉っぱがあったよ」と更なる興味に発展し、園外で探し、見つけた植物を子ども同士で共有し合う姿があった。
- ④制作した作品は保護者と他クラスに披露し共有した。「これは〇〇っていう植物だよ」「山にあるんだよ」と教える関わりがあった。
山や公園で活動する際に植物だけでなく、生き物（虫）に興味を示す姿もあり、探究活動で得た知識や体験から、自分で疑問に思ったことを調べたり聞いたりし探究していく姿がたくさん見られた。



お友だちと図鑑を開き観察する様子



キャンプ村へ向かう道中の様子



とってきたはっぱを乾かす様子

まとめ

毎年恒例行事となっているが、すくわく活動を意識して取り入れる事で子どもたちがどんな視点で活動に参加しているのかより細かく焦点を当てる事ができた。来年度も続いていくので、参加する園が同じ共通理解を持って参加できるとより内容もより深まっていくのではないかと感じる。